



SAUNA・SPA

健康とやすらぎをクリエイトする

10月/363号

発行 社団法人日本サウナ協会
TEL 03 (5275) 1541 (直)
FAX 03 (5275) 1543
〒102-0085 東京都千代田区六番町1

第1回 東アジアスパ連盟会議開催 2007年日本開催決定

9月27～29日、中国北京市郊外の九華山荘において「第1回 東アジアスパ連盟会議」が開催された。日本、韓国、モンゴルの代表団を含め、中国全土から温浴事業者約200名が参加して、各国温浴事情に関する講演が行われた。日本サウナ・スパ協会からは国際交流部会長の米田行孝・副会長以下16名が出席した。

中国は2年後の北京オリンピックを控え空前の建設ラッシュで、いたるところで工事が行われている。会場となった九華山荘は温泉で有名なところであり、広大な敷地に巨大なホテル棟がいくつもあつた。さらに新しいホテルを建造中で、敷地内にモノレールを走らせる工事も行われていた。

会議初日の27日は、朝9時から日本代表として米田行孝副会長が、日本の温浴について会員店を紹介する15分間の映像を交えて講演を行った(写真右上)。翌28日には、(株)トリリオン代表取締役社長・木地本朋奈氏が、「日本の温浴経営とサービス理念」について講演を行った(写真中央)。2日間缶詰状態の会議で参加者は少々疲れ気味で



あつたが、同時通訳による講演で各国の実情を理解できた貴重な機会を得た(講演の内容を4面で紹介)。

最終日の29日には、会議の最後にモンゴル代表甘巴特氏(写真右横)より「北京宣言」が読み上げられ、盛大な拍手で締めくくられた。

また、次年度開催国として日本での開催が正式に決定、中国代表より米田副会長に連盟旗が授与された(写真右下)。

会議終了後は北京市内の展示会場において、スパ&プールの展示会を見学した。一同、電動リクライニング椅子の豪華さ



や価格の安さに驚き、また日本でも話題になっているドクターフィッシュの温泉魚に興味が集まった。

30日には、天安門広場や故宮博物院を観光した。中国は10月1日が建国57周年の国慶節のため1週間の連休に入り、期間中は旅行や帰省で4億人が動くと言われる時期であったため、観光先の人出もたいへんなもので、今後の余暇産業の可能性を改めて実感した。

『北京宣言』(要旨)

- ① 東アジアスパ連盟の成立が世界のスパ(温浴)業界に良い影響を与え、世界を牽引する専門組織に発展する。
- ② 東アジアスパ連盟が業界の職業規範と科学技術の新機軸を確立し、さらなるスパ業界発展のために重要な使命を果たす。
- ③ 人々のスパへの要求の高まりにともない、レベルの高い人材の育成に力を注ぐ。
- ④ 各国との交流により特徴のあるスパ文化を創造し、スパ業界の発展に努める。



SAUNA・SPA新聞へのご意見・ご感想をお聞かせください。協会ホームページでもご覧になれます。http://www.sauna.or.jp/

Kanebo

充実のラインナップで施設様をサポートします。

VECTEUR



【ヴェクトゥール】

スキッと香って残らない極微香・残香性ゼロの男性化粧品シリーズ

Posit



【ポジット】

紫外線から髪を守る、無香料・無着色のスタイリングシリーズ

MAKE CLEAR MILK



【メイククリアミルク】

メイク落としと洗顔が一度に出るお風呂で使える洗顔ミルク

お問合せは全国のニチリ・カネボウレジャー代理店または日理株式会社へ

日理株式会社

東京店/東京都荒川区東日暮里 6-39-15 ☎(03) 3803-1211 (代)
大阪店/大阪府東大阪市長田東 2-1-11 ☎(06) 6746-5300 (代)



「飲酒運転は絶対にしません！させません！」



飲酒運転根絶へ向けた取り組みの強化を

近年、罰則の強化と防止努力により、飲酒運転による死亡事故は減少傾向にあった。しかし今年に入ると増加傾向に転じ、特に最近、飲酒運転による死亡・重大事故が続く憂慮すべき事態となっている。

このため、本協会へ厚生労働省健康局生活衛生課組合振興係を通し、内閣府中央交通安全対策会議交通対策本部より関係団体へ飲酒運転の根絶について周知協力の依頼があった。

自分自身が飲酒運転をしないことはもちろんだが、我々は車で来店されたお客様の飲酒について注意を要する立場でもある。飲酒運転に対する意識改革を進めて根絶を図るためにも、書面や声掛けといった日常業務のなかでも一層の注意を払うよう協力願いたい。



■飲酒運転の根絶に向けた取り組み強化

- ・酒気帯びで絶対に車を運転しない。同乗者も酒気帯びでは運転させない。
- ・運転者には酒類を提供したり、飲酒を勧めてはならない。
- ・飲食店は、運転者に酒類提供を自粛し、飲酒運転をさせない取り組みについて協力する。
- ・「飲酒運転は絶対にしない、させない」との意識改革を図り、啓発活動を強化する。

■飲酒運転に対する指導取締りの徹底

- ・取締り強化とともに、同乗者、酒類提供者に対しても徹底した責任追及を行う。
- ・さらなる罰則強化について検討する。

(内閣府中央交通安全対策会議交通対策本部による措置〈一部〉より)

関西支部より ニュージャパン観光(株) 毎年恒例の敬老の日 老人ホーム慰問を今年も開催

毎年「敬老の日」前後にニュージャパン観光(株)が行っている大阪市立弘済院養護老人ホーム慰問の恒例行事が、今年は9月26日に行われました。この慰問は今年で48回目です。

今回は今年7月に就任した中野佳則社長をはじめ、セラピスト33名、引率者13名の総勢46名が、お年寄りとおふれあいを楽しみました。

挨拶やお土産贈呈の敬老式典終了後は、60名のお年寄りを2回に分けて、1人約20分ずつマッサージしました。奉仕マッサージの時間は、毎年恒例で顔なじみになったセラピストとお年寄りの再会や、孫のような若いセラピストとのふれあいを喜んでいただけました。なかには、若返ると言って逆にセラピストをもみほぐした元気なおじいちゃんが、長年連れ添ったおばあちゃんに注意されるというほほえましい場面もありました。

マッサージ終了後の恒例となっているカラオケ大会には、昨年に引き続き「クローバーカフェ」が参加。抽選で選ばれた弘済院3組とニュージャパン2組の5組で熱唱を繰り広げました。



一緒に口ずさんだり手拍子をとるお年寄りの元気な姿や素敵な笑顔はその場にいたすべての人達を楽しい気持ちさせ、会場はアットホームな雰囲気ですばいになりました。

恒例行事の内容に目新しい変化がなくとも、回数を重ねるたびに歴史と重みが増して、参加者は変わってもいままでの思いが引き継がれていることが感じられる素敵な催しとなりました。

お年寄りが感謝の気持ちや喜びを素直に表現されることで、セラピスト達も心が洗われ、元気をたくさんいただきました。この行事は、お客様に癒やしと潤いを与える仕事をしているセラピストにとって、さらに誇りを持つことができる貴重な1日となっています。



「娘や孫が来たと思ってくれたい」とセラピストを代表して挨拶する鳥居さん

参加セラピストの感想

◆今日をとっても楽しみにしていただいているんだなあと、皆さんの顔を見て思いました。機械も道具も使わずに人の役に立つこと、喜んでもらえることができる私たちの仕事って素晴らしいと誇らしく思いました。良い機会をありがとうございました。

(上原さん)

◆初めての体験で本当に楽しかったです。私の身体を使って誰かの心地良さのお役に立てることがとてもうれしかったです。弘済院の方々は毎日どんなことを思われたり、何をして過ごされているのかなと思いました。祖母もグループホームに入っているのいろいろなと思いました。お年寄りの方々みんなが明るく元気に過ごしていただける世の中になればいいなと思います。

(泉谷さん)

◆入社以来3年連続で参加しています。お店に来ていただけるお客様の疲れを癒やす仕事だけでなく、お年寄りを無償で私の持つ技術で癒やし喜んでいただけることは私にとってセラピストになる原点です。毎年参加し続けたいと思います。

(滝波さん)



3年連続参加の滝波さん(左端)。今年入社した後輩セラピスト野本さん(右から2人目)を引き連れ、なじみのおじいちゃんたちと記念撮影



感謝状を受け取る中野佳則社長(左)

関東ブロックより 「関東ブロック店舗責任者勉強会」を開催

関東ブロック(埼玉県支部、東京都支部、神奈川県支部)は10月12日、エラワン新宿靖国通り店(東京都新宿区)にて「関東ブロック店舗責任者勉強会」を開催しました。久しぶりに関東ブロックが一堂に会した勉強会で、正会員31名が参加しました。

各店舗の売上動向や施設の改善内容、イベントの内容等について参加全店舗から発表。各内容についてかなり詳細な質問が出るなど、



内容の濃い討論が行われました。

また、過去1年間の各部門における売上の前年同月比について、各店舗の動向や全体的な売上動向についての分析も行ったところ、こちらも多数の意見が出され、盛会な勉強会となりました。

なお、勉強会に引き続き開催した懇親会には賛助会員16名も出席し、正会員である(株)ヒューマックスのご好意により、エラワン自慢のタイ料理に舌鼓を打ちながら情報交換で盛り上がりしました。

報告・東京都支部事務局

KIRIN

KIRIN'S ORIGINAL BREW
DRAFT BEER
KIRIN BEER
一番搾り

キリン一番搾り

飲酒は20歳になってから。お酒は楽しく、ほどほどに。

サウナ あれこれ 延長戦

第15回 漂流民バーニア体験記

中山真喜男 サウナ・スパ管理士講師

バーニアのことが出たついでに、一気に江戸時代末期の頃に話が飛びますが、難破してロシアに渡り奇跡的に日本に帰ってきた船乗りの、ロシアでのバーニア体験記があります。

ロシアへの漂流民の話としては、井上靖著『おろしや國酔夢譚』の大黒屋光太夫の話が有名です。奇跡的に帰国した光太夫らは幕府取り調べを受け、のち桂川甫周が聞き書きを『北撻聞略』としてまとめましたが、將軍家に献上されたため長く一般の目にふれることはありませんでした。

光太夫の神昌丸の遭難が1782年、これから述べます若宮丸の遭難は11年後のことです。若宮丸の場合も帰国した4人は仙台藩の取り調べを受けた後、聞き書きが『環海異聞』としてまとめられ、これは写本がいくつか出回ったようです。またなかに挿画も入っています。

寛政5年(1793)の秋、仙台藩の御用米や材木その他を積んで若宮丸が石巻港を出港し、江戸へ向かいました。船頭・平兵衛以下16名が乗り組んだこの船は、塩屋岬の沖合いで大風に遭い遭難、北西の季節風に吹き流され6ヵ月を漂流し、漂着したのはアリューシャン列島の最北端に近い孤島でした。その地で助けられ、約1年後にロシア船

に救助され、オホーツクに至ります。

その後、ヤクーツク、イルクーツク(約8年滞在)、モスクワを経て、サンクト・ペテルブルグで皇帝に拝謁し、日本との通商を求めるレガノフの船でカナダ軍港を出帆し、デンマーク、イギリス、カナリア諸島、ブラジル(サンタ・カタリナ)、マルケサス島、ハワイ諸島を経てカムチャッカに至り、南下して長崎に帰ったのは文化元年(1804)で、帰国できたのはわずか4名でした。他の6名はロシアで帰化し、その他は異国の地で病死しました。

このとき仙台藩の蘭学者・大槻玄沢と志村弘強が聞き書きをまとめたのが『環海異聞』です。このなかにイルクーツクでのバーニア体験が書かれています。池田皓訳より、その部分を引用します。

当所(イルクーツク)は家数が三千軒ほどあり奉行が在勤し、2~3人いると聞いた。…(中略)…風呂はから風呂で、銘々の家にある。ただし住居からは離れて風呂屋を建てる。そのやり方は内に石を積んでおき、その下から火を焚いてその石を焼く、よく焼けたときにこれに冷水をそそぎ打ちかける。これによって湯煙が盛んにたちのぼり、その内に充満する。この時風呂屋の入口を閉じる。

さて人々が入浴する所は、そのすぐ脇にあり、仕切板でこれを隔てる。熱湯の気がここに蒸してくる。さて内には幾重にも棚を設ける。その棚の上に人々は裸になって入り、その熱気で体を蒸す。よく垢もとれ疲労も治るのである。桜の小枝の葉の付いたままのものを束ね、箒のようにしてその内におき、人々がこれで自分でからだを打つと、垢がよく落ちる。小桶に冷水も入れておき、中の火気が余りに強く堪えがたければ、おりおり顔にその水をそそぐ。陸湯、水流しは、わが国と同じである。折々出て陸湯を遣いまた入る。月四度ばかり風呂がたつ。これはオシキリセンヤという式目の前夜には必ず風呂をたて、家中身を清める。市中に銭湯もある。すべてこの通りである。ただし大勢入り込むので、別して広く構えたままである。入浴しつけない者は長い間なかに居ることができない。

以上の如くですが、文章からバーニアの図面を描こうと具体的なイメージを思い浮かべてもよくわからないところがあります。それに対し『北撻聞略』に書かれているのは、スモーク・サウナを思い浮かべさせる内容です。

レポート

「第54回 日本心臓病学会学術集会」に出席して

(社)日本サウナ・スパ協会専務理事 中野善治朗



このたび本協会理事の鄭忠和・鹿児島大学大学院循環器・呼吸器・代謝内科学教授(写真左下)が大会長を務めた「日本心臓病学会の学術集会」が、9月25~27日鹿児島市民文化ホールを中心に計7会場で開催されました。

鄭先生が理事をされている日本心臓病学会は、心臓病に従事する約9000人の会員を擁する学会です。今回の学術集会は、臨床心臓病学の最新の研究を討議する場であり、海外の著名な学者による招請講演、最新知識の教育講演、看護師や検査技師対象の特別プログラムをはじめ、医療に携わる人々に新しい知識を学ぶ機会を提供すべく多彩な企画で構成されていました。このような大



規模な大会に出席して、医療の素人の私ですら、大会長を務められた鄭先生のご苦勞をお察しました。

初日より多くの講演と研究発表が行われていましたが、鄭先生も会長講演として26日に、「温熱療法は慢性心不全患者の長期予防を改善する」と題し、自ら開発された慢性心不全に対する温熱療法について、その原理と17年に及ぶ臨床試験成果を講演されました。

会場のひとつであるサンロイヤルホテルには、温熱療法が体験できるよう、大型温熱療法サウナ室(写真中央)と、移動サウナ2台に



温熱療法用サウナの横には、時間をかけて体温を戻すためのベッドも用意されていた

よる体験コーナーが設けられていました。

鄭先生の開発された温熱療法は、60度の乾式サウナに15分間入り、深部体温を1度上昇させ、その後30分間安静にして徐々に体温を戻していくもので、心臓病以外の様々な疾患で有用性が報告されています。実際の治療と同じ手順で体験できるように看護師が付き添い、希望者が体験できるようになっていました。温熱療法用のサウナは高温サウナとは異なり、じわりと体の芯から温めるため、多くの体験者から好評で、私も「包み込まれるような感じで心地よい」との感想を聞きました。

また、同会場では温熱療法を特集した鹿児島テレビの「21世紀の湯治 温熱療法 ~心不全に有効な均等低温サウナ浴~」(23日放映)がVTR放映されていました。こうした機会に少しでも多くの方に温熱療法を知っていただき、サウナの効果を利用した治療法が広まっていけば、協会としても大変喜ばしいことだと思います。

なお、学術集会前日の24日は「世界ハートの日」であったため、世界各国の関連団体と連携した一般向け予防啓発イベントが行われました。今回のテーマは、「あなたの心臓、若さを保っていますか」です。

私も鹿児島市民文化ホールで行われた市民公開講座で、専門家による「心臓病にならないための食事・入浴・運動・禁煙」についての講演を拝聴しました。こちらは一般人向けのためわかりやすく、実用的な内容でした。

こちらでも田中信行・鹿児島大学名誉教授の「入浴」をテーマにした講演でサウナが取り上げられており、とてもうれしかったです。

Asahi Beer advertisement with text: 'これが辛口、うまさが違う。Asahi SUPER DRY 350ml'.

Pocari Sweat advertisement with text: 'のどをうるおすだけの飲料ではありません。大塚製薬 POCARI SWEAT'.



第1回 東アジアスパ連盟会議 講演要旨

2日間の会議中、米田副会長の講演を皮切りに、14演目にあたる温浴に関する講演が行われた。紙面の関係上、演題のみの掲載となるが、中国商業連合会沐浴専門委員会副主任・上海雲海実業理事長の施有毅氏による講演「中国沐浴業界の発展現状と未来」を抜粋して掲載することで、現中国の温浴状況の紹介に代える。



講演

- 「日本の温浴施設紹介」 米田行孝(日本)
- 「韓国沐浴業界の発展状況」 魯旨涉(韓国)
- 「モンゴル沐浴業界の発展状況」 甘巴特(モンゴル)
- 「中国沐浴業界の発展現状と未来」 施有毅(中国)
- 「卓越した管理 TAT」 翟鴻燦(中国)
- 「沐浴業発展に関する政策と法律環境」 田坤(中国)
- 「温泉の商品属性と文化の創造」 夏明(中国)
- 「国の扉を開き業界が連合して、東アジアの沐浴経済を繁栄させよう」 劉明(中国)
- 「日本の温浴経営とサービス理念」 木地本朋奈(日本)
- 「沐浴企業のチェーン化経営とサービス規範」 李凱(中国)
- 「健康な沐浴、神聖な文化、健康な体、浄化された心」 普穎華(中国)
- 「中国養生理念とスパという新発想」 陳漢江(中国)

中国の沐浴業は、90年代から「改革開放」「現代化建設」の二つの政策に密接に関係して発展しました。温泉で養生するという考え方は西洋のスパの概念と融合し、今では中国内に広く浸透しています。

様々な業種が発展し、市場競争が急激化したため、管理体制が求められ、2000年以降に政府は各業界の協会を設立させました。そして2006年1月31日、民政部は初の沐浴業界組織「中国商業連合会沐浴専門委員会」(以下、沐浴連)を正式に成立させたのです。これにより、中国沐浴は新たな発展の段階に到達したと考えられます。

では、現段階の中国の沐浴業界について、大まかに説明しましょう。中国沐浴業界の発展には、以下のような特徴があります。

① 社会環境の変化

WTO加入以来、政府はサービス業の発展と沐浴業界に対して、新しい政策・制度など、社会環境を整えました。それにより沐浴業の環境は改善され、業界は急速に発展しています。

② 発展著しい業界

調査資料によると、現在沐浴企業数は10万社以上、従業員は約1000万人にもなります。なかでも江蘇省揚州市は400社の沐浴企業があり、その従業員は6万人を数えます。

何千万元あるいは億元単位という投資で、リゾートセンター、サウナ、スパ、足療法、温泉などを備えた大規模複合施設もあちこちに出現しています。「如権金城」「蘇揚足療」「陸琴足芸」といったブランド名を打ち出した店舗も多く、集中して開業し、競い合うというケースも出てきました。

③ 業界のルール化の進歩

2003年に「足裏マッサージ師」「マッサージ師」「足

エステ」の資格を制定、沐浴連設立以降に国家商務部と国家標準化管理委員からの認定も受けました。これからは国家衛生部行政部門が「沐浴業界水質標準規範」に関して新しい制度を制定します。

④ 沐浴業界の人材育成

「人材こそ企業の基礎」との考えにより、教育事業も始まりました。本年、沐浴連は北京と江蘇省揚州市に二つの人材育成拠点を設け、業界の管理者と技術者の養成を開始しました。

⑤ 業界内交流が急速に発展

企業同士のコミュニケーションが盛んになりました。その要因の一つに、WEBサイトによる情報の受発信が容易になったことが挙げられます。また、業界外の企業間交流も盛んに行われています。

⑥ 外国の温浴企業が注目

多くの海外のスパ企業が中国市場に進出しています。例えば、「マンダラ・スパ」は2003年11月から上海、海南島三亜の両方で開業しました。香港、台湾からの参入もあります。

以上のように、中国の沐浴業界は急成長を遂げました。しかし、あまりに急激な成長であったため、様々なひずみを生んでいることは否めません。

経営者の意識不足や目的の曖昧さにより、建物などハードのみを充実させて人材の育成が遅れ、サービスや技術のソフト面が伴わないといった実体は随所にみられます。また、資源の有効利用や環境保護の意識が低いことも問題とされています。

そういう問題を抱えてはいるものの、政府管理部門の迅速な誘導と規制の制定により、市場の健全化がなされつつあるのが実情です。

中国経済が目覚しく発展するなか、沐浴業界はこれまでとは比較にならないほどの可能性を持って推移しています。方向を見誤ることなく着実に前進するためには、私たち沐浴事業関係者が意識を高く持ち続けることが不可欠です。そのためにも、今後とも活発な交流をお願いする次第です。



左から中国、モンゴル、韓国、日本の代表者

いまや中国の人口は13億人以上と言われ、オリンピック景気にわく実質成長率は9%を超える。現在の中国人の三種の神器は、「自動車・マイホーム・海外旅行」。年々マイカーも増え、高層マンションの建設も購入も活発だ。

年間海外渡航者3000万人(推定)は、日本の海外渡航者数1700万人と比べていかに多いかわかる。日本への観光客も年々増加していることより、会員店へ観光客が来店することも考えられるため、我々も誘致のビジネスチャンスや、習慣の違いから生じるトラブルの防止策を考慮すべき時期に入っている。

また、中国の環境問題は地球規模の取り組みが必要で、日本の得意とする省エネルギーシステムや環境への取り組みで対処しなければならぬ問題もある。こうしたことから東アジアの連携は必然となっている。

■第1回 東アジアスパ連盟会議 参加者 米田行孝(副会長)、洪里勝信(理事)、平井要子(理事)、木地本朋奈(評議員)、平井絢子、志賀正浩、網田勝則、和田秀暢、富坂 毅、森本隆志、中野伸康、竹内隆治、入江清人、尾崎 新、林みどり、若林幹夫(事務局長)

会議で放映しました日本の温浴施設説明DVD制作のためご協力いただきました(株)東京ドーム、万葉倶楽部(株)、高山物産(株)、(株)富士商事、(株)ジェムの各社に御礼申し上げます。

エネルギー・フロンティア TOKYO GAS

いまどきのサウナは「マイルドしっとり」系

カッとするような熱さと肌に刺激的な高温サウナに替わり、いま身体にやさしい中温湿式の「ロッキーピラミッド」が評判です。室温は65℃～80℃の中温にキープ。水打ちされたサウナストーンからはたっぷりの蒸気が立ち上がります。これからのサウナは、高温に耐えながら汗をかくマニアックなものではなく、女性やお年寄りも楽しめる「マイルドしっとり」系の「ロッキーピラミッド」サウナです。



東京ガス株式会社 都市エネルギー事業部 TEL.03-5322-7559

天然ガスがひらく未来

